

授業科目名 (英訳)	文化実習Ⅱ (華道) Cultural Practice II (Ikebana)					担当者所属 職名・氏名	総合生存学館 非常勤講師 芦田 一馬・西阪 専慶・大津 光章 中野 恭心・松本 司・桑原 仙溪				
配当学年	1・2・3 回生	単位数	1	開講年度 開講期	H27 後期	曜時限	火 4・5	授業形態	実習	使用言語	日本語
〔授業の概要・目的〕											
<p>日本が発祥の地であるオリジナルな文化、華道の総合的な知識や概念の講義と合わせて実技や体験によってより深くその特質の体得を目指す。京都が原点とされる華道の時代の流れによる変遷とその多様性についても理解を深める。自然と融和した華道は海外には類を見ない文化であり、日本人の国民性を改めて再認識することにもなる。日本人の持つ特異性を自ら認識しグローバルリーダーとして国際的な場で外国の人々と互いに文化に対する関心を深め合うことができるようになることを目指す。</p>											
〔到達目標〕											
<p>花材や鉢、花器などの取扱いに慣れ親しみ、出来るだけ機会をみつけて、簡単ないけばなをしつらえておもてなしが出来るようになることを目指す。また、花材により日用品や雑器を用いてみるなど、チャレンジ出来るようになることを目指す。</p>											
〔授業計画と内容〕											
<p>【第1回】 イントロダクション 【第2回】 日本人の自然観と死生観を考察 【第3回】 華道の誕生 花と信仰 【第4回】 仏教といけばなの成立 【第5回】 伝書に見る花 【第6回】 花と風流と粋 【第7回】 王朝文化といけばな様式 【第8回】 建築様式といけばなの変遷 【第9回】 カルチャーとしてのいけばな観 【第10回】 流派といけばな様式の多様性 【第11回】 いけばなと器、それに伴う花止め形式 【第12回】 現代いけばなの素材性 【第13回】 いけばな表現形式と技 (古典の理論と実演 現代の造形的表現法) 【第14回】 迎え花とおもてなしの花 (京都迎賓館の接遇の花その他観光客へ向けての花) 【第15回】 討論と纏め (作品を様々な空間に展示して総評)</p>											
〔履修要件〕											
特になし											
〔成績評価の方法・観点及び達成度〕											
最終講義時に実技及びレポートを提出。花材や花器の選択及び生け方などを総合的に判断する。											
〔教科書〕											
特に指定なし											
〔参考書等〕											
工藤昌伸「日本いけばな文化史(一)～(五)」(同朋会出版、1995年)											
〔授業外学習(予習・復習)等〕											
各種施設の見学や生け花展での鑑賞会など適宜紹介する。											

〔その他（オフィスアワー等）〕

各回筆記用具・花鋏を持参

nakano.kyoshin@gmail.com